

再会は突然に

懐かしさよりも
新鮮さで溢れている

ちょっとした用事で
五年ぶりに訪れた街は
記憶と随分違っていて

せっかくこの街に
来たんだから……

あの娘に
会おう

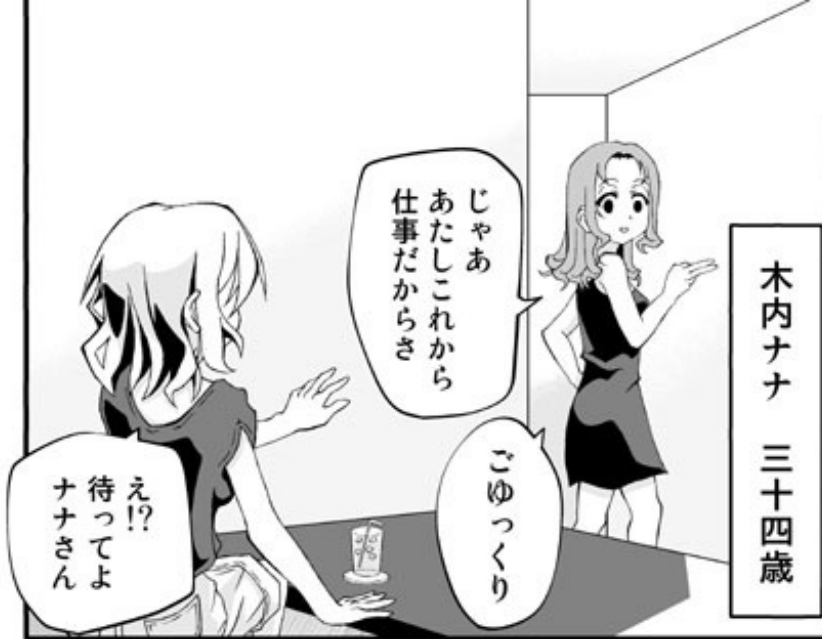
えーと確か
ここだよな

引っ越して
たりして……

進藤マリ 二十二歳

みるゆ

ホヒッ





待っててね
マリ姉

一次方程式
くらい簡単
なんだから



ねえってば
出来たよ？



よし！

出来たよ
マリ姉！

完璧！

木内ミサキ
十三歳

進藤マリ
十七歳









鍵……
締まっていたのに









……いえ

何か？



ひっ！



どうしよう……
とりあえず
謝るべきかな



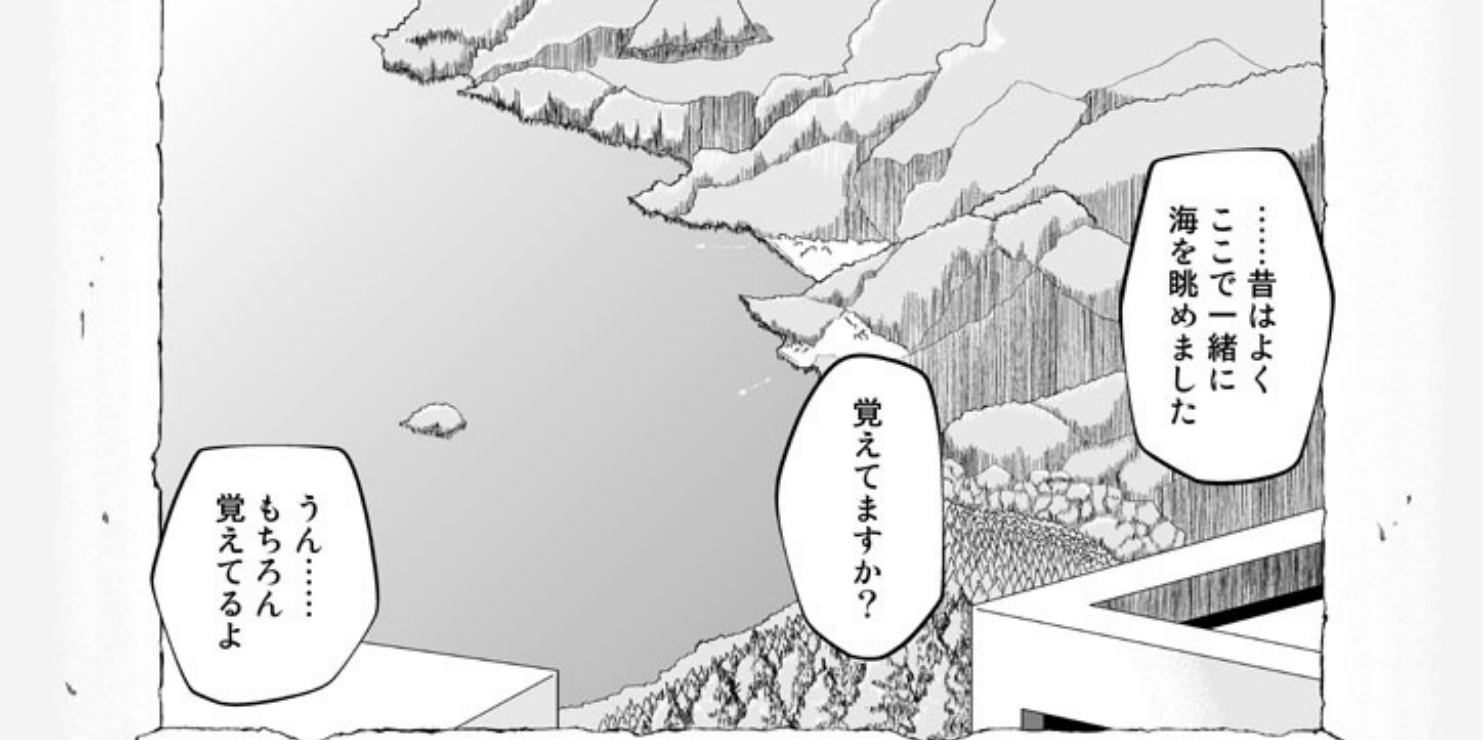
待って

ちよ……
ちよつと
ミサキ



……外に
出ませんか？





女の娘は
学校でいつも
ひとりぼっち
でした

母親の彼氏は
よく変わりました

女の娘は
そのひとりに
乱暴されそうに
なったこともあります

母親が
水商売を
していると
いうだけで
いじめにあって
いたからです

辛い記憶ですが女の娘には
もっと辛い記憶があります

進藤マリという
女性が急に
消えてしまった
ことです

女の娘の
人生で一番
辛い記憶です

立ち直れないほど
大きなショックを
受けました

……本当に
酷い人だよ
ねマリ姉って

「久しぶり」
みたいに軽い
感じでさ

ふざけないでよ
冗談じゃないよ


あたしの気も
知らないで



もう……

待つの……

嫌だよ……



大好き！
大好きなの！
マリ姉が好き！

ずっと
伝えたかった！
ずっとだよ！

ずっと
会いたくて！

ずっと
触れたくて！

ずっと
抱きしめて
ほしくて……

ずっとキスして
ほしくて……

……わたしも
同じ気持ち
だったのに……

怖くなって
逃げてしまった……











うわー

見てよマリ姉
凄く月が綺麗だよ

重……
ちよっと……

普通わたしが
ミサキを
抱きしめてる
シーンでしょ
ここは……

これじゃわたしのほうが
子どもみたいじゃない

ズンズン

だってマリ姉
背が小さくて
かわいいんだもん



調子に乗って……
あ……いつの間にか
敬語じゃないし

えへへ

ナナさんが
帰ってきたら
3人で話をう

うん

もう独りで
悩みを
抱えないこと
わかった？

うん！

……わたしたちのことは
どうやって説明しよう……
まあ……なんとかなるさ

再会は突然に

<http://p.booklog.jp/book/26783>

著者：みるゆ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/miruyu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/26783>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/26783>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.